

『ドングリで一杯になる森の自然を大切に』

秋は、多くの植物が実をつけます。赤色、黄色、緑色、茶色など、<sup>あで</sup>艶やかでいろんな形の実がなり、森に秋の深まりを感じさせます。生き物にとっては、食べ物が豊かな季節となり、冬に向けての準備を活発に行う時です。右の写真は、陶史の森で育つ代表的なドングリの実です。

「ドングリ」とは、ブナ科のカシ・ナラ・カシワなど、コナラ属樹木の果実の総称です。「ドングリ」そのものが種子に見えますが、リンゴなどと同様に果実です。

「ドングリ」の漢字「団栗」は当て字で、語源は諸説ありますが、この実をコマにして遊んだことから、コマの古名「ツムグリ」が「ツムグリ」となり、「ドングリ」に転じたとも言われています。遊び道具になったり、食用になったり、また、ブナ類の木は、木炭や燃料、堅さを活用して農機具の柄として使われ、人の生活に欠くことができないものでした。それは、生き物にとっても同じで、森に住む生き物が生きていくためにとても貴重な実です。

山々の開発や樹木の伐採により、ドングリが減り、食べ物が少なくなってきているようです。各地で森の生き物が人の生活圏まで食べ物を探して頻繁に出没しています。豊かな森であれば、出没することも少ないだろうと思うと各地の森の変化がとても心配になります。豊かな陶史の森の樹木もしっかりと守っていきたいと思います。



コナラ(ブナ科)

アベマキ(ブナ科)

クヌギ(ブナ科)

アラカシ(ブナ科)

森の日記

陶史の森まつり  
9月7日(土)

第40回陶史の森まつりが秋晴れの空の下、にぎやかに開催されました。多くの皆さんの参加をいただきありがとうございました。

キジの放鳥、丸太切り、木工教室、ちびっこ相撲大会、様々な飲食販売、昆虫教室、毛糸紡ぎ教室、乗馬体験、口ウソク作り、餅投げなど、様々な催し物が行われました。

どのコーナーにおいても、肥田中学校の皆さんがボランティアとして活躍してくれました。

まつりは、大成功でした。



ちびっこ相撲受付



親子昆虫教室

教室のご案内

11月

葉っぱのしおり作り (要申込 定員20名)

11月3日(日) 午前9時~11時30分  
色づいた葉っぱを採集し、しおりにします。

バードウォッチング(自由参加、雨天中止)

11月24日(日) 午前9時~11時30分  
晩秋の野鳥を観察します。

12月

バードウォッチング(自由参加、雨天中止)

12月22日(日) 午前9時~11時30分  
冬の野鳥を観察します。

※ネイチャーセンターでは、双眼鏡や野鳥図鑑を貸し出しています。

気軽に声を掛けてください。

